

一 対象 中学生

二 主題名 支え合って生きている

三 ねらい

奉仕の精神をもって、自ら進んで実践しようとする態度を育てる。

(4―⑤)

四 発達の段階と資料の特質

○ 中学生は、自我に目覚める時期であり、他者や周囲に対する関心が薄れがちな時期でもある。しかし、自然災害を体験したり、報道等で知ったりすることで、社会の在り方や周囲に関心をもつ機会も増しており、「誰かの役に立ちたい」「他者と協力して、よりよい社会を実現したい」といった思いも根底にもっている。互いに助け合って生きていく意義を考えさせ、意欲や態度を育てたい。

○ 本資料は、「人は一人では生きていけない」ということに反発心をもっていった主人公が、見知らぬ男性が地域奉仕をする姿を見たことをきっかけに、「人は一人では生きていけない」という言葉が大好きになるという内容である。身近な事例で、奉仕の精神について考えさせることができる。

五 展開例

- 1 好きな言葉をそれぞれ発表し合う。
- 2 資料「共に生きるということ」を読んで、話し合う。
- (1) 公道の灰掃除を熱心に行うおじさんを見て、主人公はどんなことを考えたでしょう。
- (2) 掃除をしているおじさんが頭に浮かんだ主人公は、おじさんの心情をどのように想像したでしょう。
- (3) 主人公は、なぜ「人は一人では生きていけない」という言葉が大好きになったのでしょうか。
- 3 心のノート「自分だけがよければいい・・・」の『「社会に生きる一員として」』のページを活用し、個々のこれまでの経験や、これからの思いについて発表し合う。
- 4 ボランティア活動について書かれた生徒作文を聞いたり、教師による奉仕体験の際の思いを聞いたりする。

六 指導上の留意点

○ 展開例4で、国内外で起こっている災害に対して、復興を願う多くの人々による様々な取組があることを、映像や記事等を活用して生徒に知らせることで、よりねらいに迫ることもできる。

七 参考資料等

○ 平成二十三年度青少年の主張宮崎県大会少年の部で発表され、優秀賞を受賞した作品「共に生きるということ」を一部改変してストーリーを構成した。